

令和 7 年度農作物有害動植物発生予察情報 発生予報第 7 号（10 月）

令和 7 年 9 月 24 日
山形県病虫害防除所

〔概 要〕

園芸作物：りんごの黒星病・褐斑病、日本なしの黒星病は、翌年の伝染源密度を低減するため、収穫終了後に薬剤散布を行ってください。また、落葉を集め適切に処分する等、耕種的対策を組み合わせる総合的に防除を実施してください。

もものせん孔細菌病は、翌年の伝染源密度を低減するため、落葉期までに無機銅剤を 1～2 回散布してください。

おうとうの褐色せん孔病は、翌年の伝染源密度を低減するため、落葉を集め適切に処分してください。

秋冬ねぎのシロイチモジヨトウの発生量は多く、ネギアザミウマ・ネギハモグリバエはやや多い予想です。密度が高い場合は防除間隔を狭め、継続して防除を行ってください。

野菜・花き共通害虫のオオタバコガ、ハスモンヨトウの発生量はやや多い予想です。発生を確認したら速やかに防除を行うとともに、被害の拡大が見られる場合は異なる系統の薬剤で防除を実施してください。

予報内容一覧

作物名	病虫害名	発生量
りんご	黒星病・褐斑病	—
	炭そ病	—
もも	せん孔細菌病	—
日本なし	黒星病	—
おうとう	褐色せん孔病	—
果樹共通害虫	コスカシバ（もも・おうとう）	平年並
秋冬ねぎ	葉枯病	やや多い
	さび病	—
	ネギアザミウマ・ネギハモグリバエ	やや多い
	シロイチモジヨトウ	多 い
野菜・花き共通害虫	オオタバコガ	やや多い
	ハスモンヨトウ	やや多い

山形県病虫害防除所 本 所	TEL 023-644-4241	FAX 023-644-4746
庄内支所	TEL 0235-78-3115	FAX 0235-64-2382
山形県病虫害防除所トップページ	https://agrin.jp/theme/byogaichubojosho/index.html	
農作物有害動植物発生予察情報	https://agrin.jp/theme/safe_products/yosatsu/index.html	

1. 合成ピレスロイド剤等を使用する場合は、市町村農作物有害動植物防除協議会等で定めた地区に限って使用し、蚕・魚類に対する被害を防止する。
2. 耐性菌・抵抗性害虫の出現を防止するため、薬剤の選択及び使用回数に留意する。
3. **品種ごとの収穫時期を考慮し、使用時期（収穫前使用日数等）を厳守する。**
4. **農薬の使用に当たっては、登録内容（農薬使用基準）を遵守するとともに、隣接地や周辺作物へ飛散しないよう十分留意する。また、使用後は防除日誌の記帳に努める。**
5. 農薬の空容器や空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に行う。

予報根拠中の記号 (+)：発生量を多くする要因 (－)：発生量を少なくする要因

I 園芸作物

1. りんご

(1) 黒星病・褐斑病

翌年の伝染源密度の低減を図るため、以下の対策を徹底する。

- ア. 収穫が終了した品種から薬剤散布を行う。なお、収穫終了後に防除が実施できない園では、10月中旬頃に薬剤散布を行う。
- イ. 落葉した発病葉は翌年の一次伝染源となるため、収穫終了後から翌春の展葉期までに落葉を集め適切に処分する等、耕種的対策を行う。
- ウ. 枝葉の混み合った園では日当たりや風通しが悪く、樹冠内部へ薬液がかかりにくくなる。せん定に当たっては、薬液の到達性を考慮し実施するとともに、過度のせん定とならないよう注意する。

(2) 炭そ病

発病果は二次伝染源となるので、見つけ次第摘み取り適切に処分する。

2. もも

(1) せん孔細菌病

翌年の伝染源密度の低減を図るため、以下の対策を徹底する。

- ア. 落葉期までに無機銅剤を前回散布から2週間おきに1～2回散布する。なお、台風等により早期に落葉すると、落葉部位からの感染が多くなるため、台風の通過前や降雨前に薬剤散布を行う。
- イ. 薬剤散布にあたっては、枝先まで薬液が十分にかかるようていねいに行う。

3. 日本なし

(1) 黒星病

翌年の伝染源となるりん片への感染を防止するため、以下の対策を徹底する。

- ア. 収穫終了後、芽りん片が露出する頃（10月上旬頃）から1～2回薬剤散布を行う。なお、発生が多い園では必ず2回防除する。
- イ. 薬剤散布に当たっては、薬液が樹全体にかかるようていねいに行う。また、スピードスプレーヤーで散布する場合は、走行速度や散布経路に注意し、散布ムラを防ぐ。
- ウ. 発病葉は翌年の一次伝染源となるため、落葉を集め適切に処分する等、園内の伝染源密度の低減に努める。

4. おうとう

(1) 褐色せん孔病

9月22日現在の発生量はやや多い。翌年の伝染源密度を低減するため、落葉を集め適切に処分する。

5. 果樹共通害虫

病 害 虫 名	対 象 作 物 名	予 報 内 容
		発 生 量
(1) コスカシバ	もも・おうとう	平年並

1) 予報の根拠

9月22日現在の発生量は平年並である。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 枝幹部の食入痕からは、虫糞の混じったヤニが出ているので、よく観察し、幼虫を見つけ次第捕殺する。また、細かな虫糞の出ている食入痕周辺は、木槌等で軽くたたいて樹皮下の幼虫を圧殺する。
- イ. 若齢幼虫は樹皮下の浅い部分に食入するため、落葉後直ちに枝幹部に薬液が十分にかかるように薬剤散布を行う。なお、落葉前にも使用できる薬剤を散布する場合は、葉に薬液がかからないよう注意する。
- ウ. 枝幹の樹皮が裂けている場合や樹勢が低下している樹は、特に被害を受けやすいので防除を徹底する。
- エ. 若木や幼木は、こぶ状に盛り上がった接木部が被害を受けやすいので、この部位にも薬液が十分にかかるようていねいに散布する。

6. 秋冬ねぎ

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) 葉枯病	やや多い

1) 予報の根拠

ア. 9月22日現在の発生量はやや多い。(＋)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は平年並か多いと予報されている。
(＋)

2) 防除上注意すべき事項

ア. 降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行い、散布予定日に降雨が予想される場合は前倒しして散布を行う。

イ. 本病害は、新葉に発生する黄色斑紋病斑の原因となるため、薬剤散布を行う際は、薬液が新葉まで十分に付着するよう、生育に応じた十分な薬液量でいてねいに行う。

ウ. 黄色斑紋病斑は、特に一部の品種（夏扇パワー等）で発生しやすいため注意する。また、収穫が遅れると発生しやすくなるため、適期収穫に努める。

(2) さび病

9月22日現在、発生は確認されていないが、降雨が続くと発生が多くなるため、以下の対策を実施する。

ア. 肥切れで発病が多くなるので、止め土前に追肥を行い、肥切れを防ぐ。

イ. 潜伏期間が長いため、発生前から防除を行う。

ウ. 降雨が続く場合には、薬剤の散布間隔があきすぎないように雨の合間を見て防除を行い、散布予定日に降雨が予想される場合は前倒しして散布を行う。

エ. 一部の品種（関羽一本太等）では発生しやすいため注意する。

オ. 発生が見られた場合は、圃場内で広く感染している恐れがあるため、速やかに薬剤散布を行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
---------	---------

	発 生 量
(3) ネギアザミウマ・ ネギハモグリバエ	やや多い

1) 予報の根拠

ア. 9月22日現在の発生量はいずれもやや多い。(＋)

イ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 既に密度が高まっている圃場では、防除間隔を狭め、作用性の異なるグループの薬剤による輪用散布を行う。

イ. 株全体に十分に薬液を付着させるため、薬剤散布は十分な薬液量でていねいに行う。

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(4) シロイチモジヨトウ	多い

1) 予報の根拠

ア. フェロモントラップにおける8月1半旬から9月4半旬までの誘殺数は、県予察圃場（寒河江市）、地区予察圃場（酒田市）ともに多く、9月2半旬以降に誘殺数が急増している。(＋)

イ. 9月後半の巡回調査の結果、幼虫による葉の食害が多く確認されており、平均被害株率はやや高い。(＋)

ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

ア. 圃場をよく見回り早期発見に努め、卵塊や被害葉、幼虫は見つけ次第取り除き適切に処分する。

イ. 薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、若齢幼虫時に散布する。

ウ. 既に幼虫が中齢から老齢となっている圃場では、「山形県病害虫防除基準」等を参照し、特にチョウ目に効果の高い薬剤を選定する。

エ. 薬剤防除後も圃場をよく見回り、被害の拡大が見られる場合には、防除間隔を狭め、作用性の異なるグループの薬剤を散布する。特に繰り返しチョウ目対策の薬剤を使用している場合は、抵抗性出現防止のため、異なる系統による輪用散布を徹底する。

オ. 株全体に十分に薬液を付着させるため、薬剤散布は十分な薬液量でていねいに行う。

カ. 今後も台風や低気圧の通過に伴い多飛来することが予想されるので、通過後に圃場をよく見回るとともに、発生予察情報等により発生動向の把握に努める。

キ. 本種はねぎ以外の園芸作物も広く加害するため、早期発見・早期防除に努める。

7. 野菜・花き共通害虫

病 害 虫 名	予 報 内 容
	発 生 量
(1) オオタバコガ	やや多い

1) 予報の根拠

- ア. フェロモントラップにおける8月1半旬から9月4半旬の誘殺数は、県予察圃場（寒河江市、山形市）で多く、地区予察圃場（酒田市）でやや多く、9月2半旬以降に誘殺数が急増している。（+）
- イ. 内陸地域のばらやダリア、庄内地域の小ぎくやアルストロメリア等で広く寄生及び食害が確認されている。（+）
- ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 圃場をよく見回り、早期発見に努める。特に果実、花蕾、新芽等の周辺部を中心によく観察する。
- イ. 被害を受けた果実、花蕾、新芽等は、内部に幼虫が生息している場合があるので適切に処分する。
- ウ. 幼虫の寄生や被害が見られる場合は、直ちに薬剤散布を行う。なお、薬液が株全体に十分付着するよう、生育に応じた十分な薬液量でていねいに行う。
- エ. 既に幼虫が中齢から老齢となっている圃場では、「山形県病害虫防除基準」等を参照し、特にチョウ目に効果の高い薬剤を選定する。
- オ. 薬剤防除後も圃場をよく見回り、被害の拡大が見られる場合には、防除間隔を狭め、作用性の異なるグループの薬剤を散布する。特に繰り返しチョウ目対策の薬剤を使用している場合は、抵抗性出現防止のため、異なる系統による輪用散布を徹底する。
- カ. 今後も台風や低気圧の通過に伴い多飛来することが予想されるので、通過後に圃場をよく見回るとともに、発生予察情報等により発生動向の把握に努める。
- キ. 本種は広食性であり、園芸作物を広く加害するため、周辺作物を含めてよく観察し、早期発見・早期防除に努める。

病 害 虫 名	予 報 内 容
---------	---------

	発 生 量
(2) ハスモンヨトウ	やや多い

1) 予報の根拠

- ア. フェロモントラップにおける8月1半旬から9月4半旬の誘殺数は、県予察圃場（山形市）で多く、9月2半旬以降に誘殺数が急増している。（＋）
- イ. 内陸地域のばらや庄内地域のさといも等で寄生や食害が確認されている。（＋）
- ウ. 向こう1か月の天候は、気温が高く、降水量は平年並か多いと予報されている。

2) 防除上注意すべき事項

- ア. 圃場をよく見回り早期発見に努め、卵塊や被害葉、幼虫は見つけ次第取り除き適切に処分する。
- イ. 薬剤防除を行う場合は、幼虫の齢期が進むにつれ防除効果が低下するため、若齢幼虫時に散布する。
- ウ. 既に幼虫が中齢から老齢となっている圃場では、「山形県病害虫防除基準」等を参照し、特にチョウ目に効果の高い薬剤を選定する。
- エ. 薬剤防除後も圃場をよく見回り、被害の拡大が見られる場合には、防除間隔を狭め、作用性の異なるグループの薬剤を散布する。特に繰り返しチョウ目対策の薬剤を使用している場合は、抵抗性出現防止のため、異なる系統による輪用散布を徹底する。
- オ. 株全体に十分に薬液を付着させるため、薬剤散布は十分な薬液量でていねいに行う。
- カ. 今後も台風や低気圧の通過に伴い多飛来することが予想されるので、通過後に圃場をよく見回るとともに、発生予察情報等により発生動向の把握に努める。
- キ. 本種は広食性であり、園芸作物を広く加害するため、周辺作物を含めてよく観察し、早期発見・早期防除に努める。

[発生予察情報で使用する時期、量の表現の基準]

1. 時期

平 年 並	平年値（過去 10 か年の平均）を中心として前後 2 日以内
やや 早 い	平年値より 3～5 日早い
ややおそい	平年値より 3～5 日おそい
早 い	平年値より 6 日以上早い
お そ い	平年値より 6 日以上おそい

2. 量（発生量、発生面積及び被害量等）

過去 10 年間の値を、発生が多い順に下図のように並べ、本年の値との比較により求めます。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
←多い→	← やや多い →	← 平 年 並 →					← やや少ない →		←少ない→

東北地方 1 か月予報（09/20～10/19）		
2025年09月18日14時30分 仙台管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	向こう 1 か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう 1 か月 09/20～10/19	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率 70 % です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに 40 % です。
1 週目 09/20～09/26	気温	1 週目は、高い確率 50 % です。
2 週目 09/27～10/03	気温	2 週目は、高い確率 80 % です。
3～4 週目 10/04～10/17	気温	3～4 週目は、高い確率 70 % です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）			
気温	東北地方	向こう 1 か月 09/20～10/19	10 20 70
		1 週目 09/20～09/26	10 40 50
		2 週目 09/27～10/03	10 10 80
		3～4 週目 10/04～10/17	10 20 70
降水量	東北地方	向こう 1 か月 09/20～10/19	20 40 40
日照時間	東北地方	向こう 1 か月 09/20～10/19	30 40 30

■ 低い(少ない)
 ■ 平年並
 ■ 高い(多い)